



やるきほんききさき 木佐木

神奈川県議会議員
日本共産党

2025.8.27

木佐木ただまさ news

発行：党横浜北東地区委員会

横浜市鶴見区潮田 3-147-6

TEL：045-511-1021

Profile

- ▶1984 年山梨県出身
- ▶鶴見区馬場在住
- ▶神奈川大学法学部卒
- ▶よこはま健康友の会会長
- ▶横浜東民商顧問

「地域の足」どう守る？ バス運転手不足で支援拡充を要求

県、今年度から2つの新補助事業を創設

これに対し、県土整備局長は、運転手の高齢化やいわゆる「2024 年問題」による運転手不足で減便が相次いでいる状況を認め、今年度から新たに二つの補助事業を創設すると答弁しました。

一つは、若者などがバス運転手になりやすいよう、大型二種免許取得までの期間が短縮できる特例教習の受講費用をバス事業者に補助するものです。もう一つは、既存の運転手を有効活用するため、利用者の少ないバス路線を、大型二種免許が不要な小型車での交通サービスへ転換する際の費用を市町村に補助するというものです。

局長は、これらの新事業について、すでに関係市町村やバス協会で構成する研究会で説明を行ったと述べ、今後は活用事例の紹介や意見交換を進めながら、現場のニーズを適切に把握し、来年度以降の事業規模を検討していく考えを示しました。



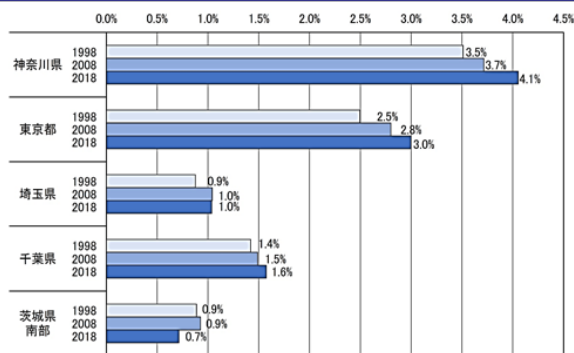
「まさに公の責務」運転手の県職員化も提案

大山議員は、県の答弁に対し、ニーズ把握を丁寧に行い来年度予算で必要な額を確保するよう強く要望。最後に、「公共交通の確保はまさに公の責務」と述べ、運転手を県職員として採用するといった、より踏み込んだ発想も持つよう求め、質問を締めくくりました。

YOUTUBE でも動画で紹介しています⇒



図2-39 東京都市圏における代表交通手段分担率(バス)の比較



(出典) 2018(平成30)年、2008(平成20)年、1998(平成10)年「東京都市圏パーソントリップ調査」(東京都市圏交通計画協議会)に基づき作成

「かながわ交通計画 地域の個性を伸ばし、活力と魅力あふれる強靱な県土づくりに向けて 令和4年3月改定」抜粋

県の支援は横浜市の6分の1？

大山奈々子県議会議員は、先の定例県議会で、運転手不足によるバスの減便が県民の移動の足を奪う死活的な課題となっていると指摘し、県の支援策を抜本的に拡充するよう求めました。

大山議員は、共産党県議団が県西部の首長と懇談を重ねてきた中で、どこもバス路線の維持が重要な課題となっている現状を報告。市町村が独自に補助金を出して路線を維持している例もある中、県の運転手確保の取り組みが年1,500万円と、横浜市の年9,000万円の住居支援に比べてあまりにも小規模だと指摘しました。さらに、「県の補助金は額も少なく、継続性に不安があり手を上げられない」という市町村現場の切実な声を代弁し、事業開始時だけでなく運営を継続するための支援が必要だと訴えました。